

30年前の連帯を再び

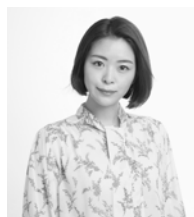
櫻井 彩乃

私の生まれた1995年、北京での第4回世界女性会議に、日本から約6千人のひとが参加しました。当時の連帯と行動が、今の社会の土台にあることを感じます。

大学時代、私は「国連女性の地位委員会 (CSW)」の第60回・62回に参加しました。世界各地のアクティビストと語り、「社会の仕組みに関わる仕事」を目指すようになりました。とりわけ、アフリカのロビイストとの出会いは、「ロビイスト」の存在を初めて知り、自分のキャリアが見えた原点です。先達の活動に学び、日本国内の課題にも気づきました。たとえば、参加者層が女性中心で、男性や性的マイノリティの若者の参加が少ないこと。CSW という国際会議自体の認知度の低さ。機会が十分に活かされていない現状があります。

それから7年。今回は若者を支える立場として、代表を務める「ジェンカレ」の若者たちとCSW69に参加しました。テーマは「北京+30レビュー」。1995年の「北京宣言」と「行動綱領」から30年経ちましたが、依然として差別的な法制度、賃金格差、無意識の偏見、ケア労働の低評価など多くの課題があります。デジタル空間での暴力、気候危機、民主主義の後退など、新たな脅威も広がっています。

CSW 開幕前の Youth Dialogue では「若者の声はただのお飾りにっていないか?」と各国のユースアクティビストが問うていました。実際、「今をともにつくる主体」として、若者の声を政策に反映する動きはまだ弱いのが現状です。日本でも、ジェンダー平等を目指し若者が活動していますが、先達の知見・経験が十分に継承されておらず、これまでの運動との分断が生じているように感じます。政策提言も組織ごとに個別で行われ、一貫性に欠ける場面も見られます。だからこそ今、私は各地の男女共同参画センターなどを拠点に年齢や立場をこえた対話と共創の場を広げ、知見と経験を引き継ぐ仕組みをつくりたいと考えています。声を上げ続けて、ジェンダー平等な未来を切り拓きます。



PROFILE

さくらいあやの：(一社)GENCOURAGE 代表理事。1995年生まれ。高校時代に同級生の一言をきっかけにジェンダー平等の実現を志す。大学時代に国連女性の地位委員会に2度参加し、アドボカシー活動の重要性を実感。2021年に GENCOURAGE を設立。「ジェンカレ」を運営し、行政・教育機関・企業と連携して若者のエンパワーメント事業を展開。国・地方公共団体の審議会委員も務める。